

アーカイブズ ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第58号 令和2年2月14日発行



与那国町役所を訪れたワトソン高等弁務官と島の子どもたち
1965年(昭和40)2月23日 [011836]

この日、与那国島では、与那国空港開港式及び民間航空エア・アメリカ就航式が行われました。琉球政府の松岡政保行政主席、琉球列島米国民政府のワトソン高等弁務官とワーナー民政官も参列し、島内各所を視察しました。

この与那国町役所庁舎は、1948年(昭和23)11月に落成し、1969年(昭和44)12月に現在の庁舎に建て替えられました。

公文書館所蔵資料あんない

第三回

米国収集資料

当館の所蔵資料は、大きく四つの資料群に分かれます。沖縄県を出所とする「琉球政府文書」と「沖縄県文書」、沖縄県以外の団体や個人を出所とする「米国収集資料」と「沖縄関係資料」です。今回は「米国収集資料」をご紹介します。

「米国収集資料」は、米国国立公文書館等の在米の機関から収集した沖縄戦や戦後の沖縄統治に関する資料です。琉球列島米国民政府、国務省、国防総省、大統領図書館等の文書や写真、映像資料があります。

◆第二次世界大戦作戦報告書

米国国立公文書館 > Archives II > RG407: 陸軍高級副官部文書

第二次世界大戦作戦報告書は、主に太平洋戦争中から 1947 年（昭和 22）頃にかけて、太平洋戦域の陸軍方面軍等が作成・収受した記録です。米軍の部隊別に、作戦計画書や戦闘報告書、敵状報告書、諜報報告書、接収日本軍文書、捕虜尋問書など 6,454 フォルダの目録を公開しています。未だ不明な点が多い沖縄戦の全容を解明するうえで貴重な資料です。

1945 年（昭和 20）6 月 18 日に押収した日本軍の軍人手帳を英語に翻訳した定期報告書。同年 3 月 23 日から 6 月 16 日までほとんど毎日記録されています。3 月 23 日には米軍の空襲によって屋我地島の愛楽園が被害にあったことを記録し、日に日に戦闘状況の内容が悪化していると述べています。瀬底島から八重岳→為又原→久志村→運天原と移動の記録とともに、夜に移動していたこと、大井川の洞窟（ガマ）に約 1,200 人が避難していたこと、食糧事情などが記されています。

(08327-007)327-2.1: 27th Infantry Division - G-2 Periodic Reports - Okinawa (29 May - 11 Jul 1945)
[003/004] [0000133376]

◆エドワード・オフラハーティ文書

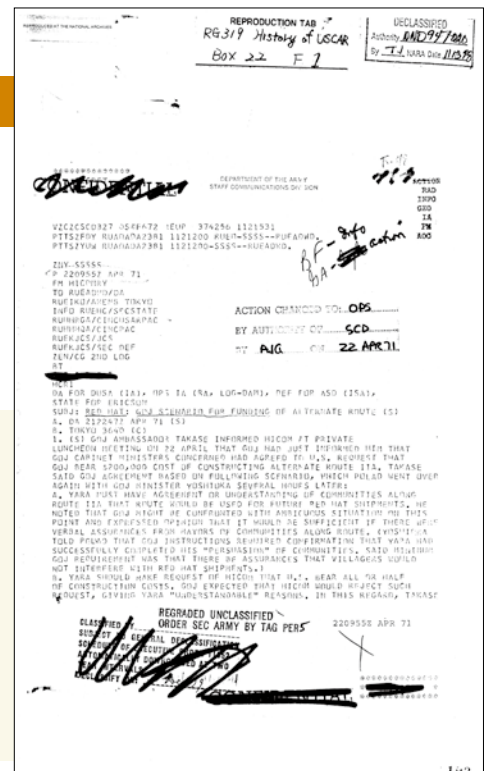
米国国立公文書館 > Archives II > RG319: 陸軍参謀本部文書

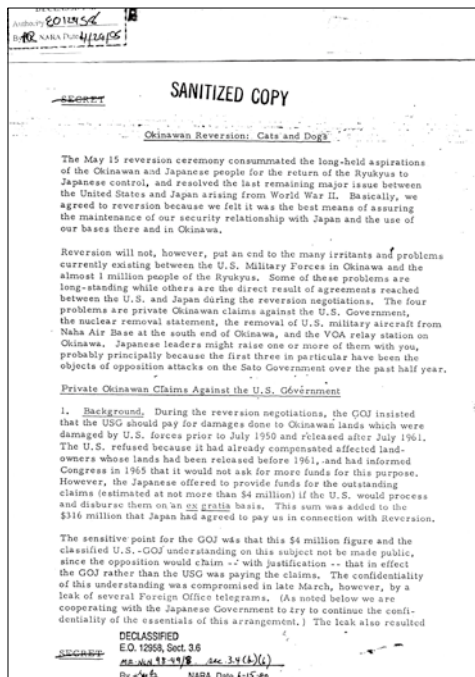
米陸軍省は、沖縄返還が迫ると、沖縄統治の歴史編纂事業に着手しました。琉球問題特別顧問だったオフラハーティがその任にあたり、編纂用資料収集のためさまざまな政府機関の機密文書へのアクセスを許可されました。沖縄返還交渉に関する電信文、覚書、土地問題に関する資料など 150 フォルダの目録を公開しています。

1971 年（昭和 46）4 月 22 日 高瀬日本政府代表とランパート高等弁務官のランチ・ミーティングの記録。

同年 7 月に米軍が実施した沖縄外への毒ガス兵器移送（オペレーション・レッド・ハット）について、日米両政府は移送コースの一部の道路建設費を日本政府が負担することをすでに合意していました。あえてそれを屋良主席に知らせず、米軍に建設費負担を断られた屋良主席がやむなく日本政府に支援を求めるようにさせるという「シナリオ」が確認されていました。

復帰関係 (Reversion) 1603-04: Reversion (Red Hat) [0000099305]





◆ニクソン大統領文書

米国国立公文書館>大統領図書館

ニクソンは、ベトナム戦争終結とアメリカ軍のベトナム撤退を公約に掲げ、1968 年（昭和 43）に第 37 代米国合衆国大統領に当選、沖縄返還に大きく関わりました。沖縄返還交渉資料など 94 フォルダを公開しています。

ホワイハウス（国家安全保障会議（NSC）が、1972 年（昭和 47）6 月のキッシンジャー大統領補佐官の訪日に備えて作成した内部文書。

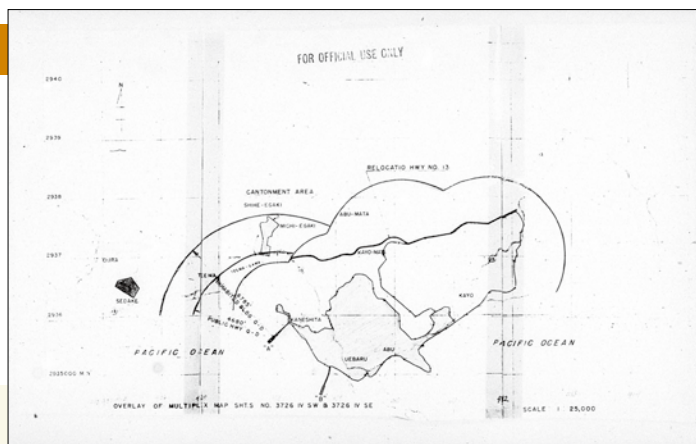
日本への施政権返還にあたり、本来は米国が地権者に支払うべき土地の原状回復補償費 400 万ドルは日本が肩代わりし、対米補償費 3 億 1600 万ドルに追加されると明記しています。日本政府はこのことを秘密とし、米政府側にも同様の対応を求めました。米政府としては公にするつもりはないが、議会やマスコミの追及があれば認めざるをえないと記しています。

(00022-001) [Henry A Kissinger's Trip to Japan, June 1972] / キッシンジャー訪日 [0000074401]

◆琉球列島米国民政府(USCAR)渉外局文書

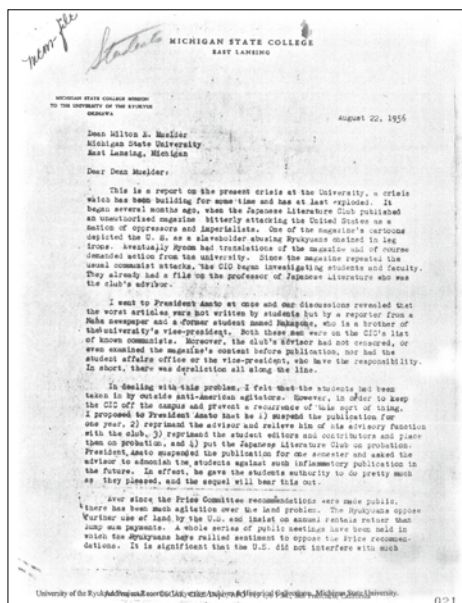
米国国立公文書館> Archives II > RG260: USCAR 文書

琉球列島米国民政府渉外局の主な任務は、「効率的で責任ある地元政府を育てるための事業や企画を行う」ことでした。日米両政府からの琉球列島米国民政府訪問者への対応、日本政府沖縄事務所への活動、日本政府援助に関する文書などを含む 2,779 フォルダを公開しています。



1960 年代後半、琉球列島米国民政府は、ベトナム戦争を背景に大浦湾を挟んだ対岸一帯に陸軍の弾薬庫建設を計画（「大浦湾プロジェクト」）、その土地取得範囲を示した地図。大浦湾北沿岸 450 家族、2,000 人の立ち退きを要するとされています。最終的には、当時の政治的状況や住民の反基地運動などからこの計画は見送られましたが、1967 年（昭和 42）時点の琉球列島米国民政府は、ワシントンの決定に備えて、補償支払いの早期実現、新基地建設開始と住民移動の時期、仮設住宅などを検討していました。

Legal Activity Reference Paper Files. Land (Oura Bay, Kushi-son). [U81100993B]



◆ミシガン州立大学グループ琉球事務所文書

大学図書館>ミシガン州立大学

米陸軍省は、琉球列島米国民政府が 1950 年（昭和 25）5 月に設置した琉球大学を支援するため、1951 年（昭和 26）にミシガン州立大学と契約を結びました。1968 年（昭和 43）までに多くの教授陣が沖縄に派遣され、琉球列島米国民政府や地元の教育関係者と協力してカリキュラム開発や施設拡充などに取り組みました。琉球大学支援事業関係資料 266 フォルダを公開しています。

1956 年（昭和 31）8 月に起きた「第 2 次琉大事件」についてミシガン州立大学顧問団団長カール・D・ミードから本部へ宛てた書簡。

「第 2 次琉大事件」とは、「島ぐるみ闘争」の渦中、琉球大学学生が米軍用地の一括払い（プライス勧告）に反対する住民集会のデモにおいて反米的言動をしたことなどを理由に退学処分となった事件です。同書簡は、琉球大学財団理事であったミードが学生の処分に至る経過を綴ったもの。

(085) Student Affairs, 1956-1961 [0000074488]

私とアーカイブス

XII 仲宗根 ゆうこさん



音楽や映像・イベントプロデューサーとして活躍する仲宗根ゆうこさん。同じ北中城をルーツとするハワイ生まれの県系二世を広く知ってもらいたいと「比嘉太郎会」の活動にも取り組み、当館所蔵の比嘉太郎文書も活用して、展示会などを開催なさっています。

東京でテレビ番組の制作に長年携わってから、沖縄に戻り、さらに親戚のいるペルーで四年仕事をしました。ペルーの天才シェフと料理の魅力や社会貢献を伝えることに夢中でしたが、再び沖縄に戻ってみると、しきりに思い出すのは現地の移民社会のこと。

それで、移民と沖縄を結ぶ仕事をしたくなって、沖縄ルーツのミュージシャンを呼んだり、演劇の脚本を書くようになりしました。

その流れで比嘉太郎という人物に出会ったというよりは、実はずっと以前から縁があったんです。私の母が、沖縄戦の最中

に墓に隠れていてアメリカの通訳兵に助けられたことをずっと話していました。母はその通訳兵が太郎さんだと信じているのですが、調べてみると太郎さんの着任とは日付が合いません（笑）。でもおかげで太郎さんは私にも特別な存在でしたし、北中城からどうやってこんな魂が生まれたのか、知るほどに引き込まれますね。

最近、コザ暴動をとり上げた音楽劇『Tの遺伝子』をプロデュースしましたが、そのリサーチでも公文書館が役立ちました。これからも、もっと通いたいです（笑）。

公文書館

ダイアリー

来館記念スタンプできました！



当館の建物をイラストにしたかわいい記念スタンプを閲覧展示棟ロビーに設置しています。

ロビー展「絵に見る琉球・沖縄」を開催中
3月1日(日)まで



琉球王国時代から明治頃までの間に描かれた沖縄を紹介しています。風景画などから当時の様子を垣間見れます。

2019年10月8日
北丘小学校キャリア教育



南風原町立北丘小学校5年生50人がキャリア教育の一環として来館し、修復と閲覧担当の職員から仕事内容について話を聞きました。また、日本復帰前の小学校に関する資料を見たり、公文書館クイズにも挑戦しました。

2019年12月3日～5日
首里高校1年生インターンシップ



公文書館の評価選別、整理、保存修復、閲覧普及業務を体験しました。

●フィルムや磁気テープ等は見ることがなく、こんなにきれいに残っている物なのかと驚いた。

●この実習を通して、修復や評価選別などのひとつの作業に没頭するような仕事にやりがいを感じたので、そういった仕事も将来の職業選択のひとつとして考えるきっかけになった。

首里城復元に関する文書

沖縄戦によって破壊された首里城は、沖縄のシンボルとして日本復帰前から復元が要請されてきました。当館所蔵資料中の首里城関連資料をいくつかご紹介します。

首里城跡戦災文化財復元要請書



琉球政府文化財保護委員会
1971年(昭和46)4月5日
吉田嗣延文書[0000095652]

琉球政府文化財保護委員会が日本政府に提出した要請書。文化財復元修理における本土との格差是正、沖縄の日本復帰記念事業の一環として、日本政府が工費を全額負担して、首里城正殿、歓会門、久慶門の復元に着手することなどを求めています。

首里城跡戦災文化財復元に関する要請書



首里城跡戦災文化財復元期成会
1973年(昭和48)7月15日
吉田嗣延文書[0000095870]

首里城跡戦災文化財復元期成会は、屋良朝苗沖縄県知事を会長に一九七三年七月に結成し、各関係省庁に首里城正殿復元と史跡記念公園地区整備の早期実現を訴えました。また、首里城復元の世論統一を図るとともに、県、琉球大学、那覇市との話し合いも進めました。

首里城復元早期実施についての要請



首里城復元期成会 1981年(昭和56)6月30日
吉田嗣延文書[0000096142]

一九八一年六月、民間主導型の組織として新たに首里城復元期成会が結成されました。この要請では、首里城復元を第二次沖縄振興計画に組み込み、一九八七年の国体開催に間に合わせるよう沖縄開発庁長官に求めました。正殿復元と歴史博物館の設置は、観光資源開発となり、沖縄経済の振興に大きく寄与するとしています。

第二次沖縄振興開発計画が首里城跡一帯の整備を明文化したのを機に、一九八四年には沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定し、首里城跡を中心に龍潭、円覚寺跡などの範囲を含む約十八ヘクタールを歴史的公園として保全・整備を図るとしました。一九八六年には、首里城公園のうち首里城跡の約四ヘクタールの区域を国営公園区域とし、その周辺区域は県

営公園区域として整備することが閣議決定され、復元整備事業がスタートしました。

那覇市広域都市計画公園に関する意見書



那覇市首里真和志自治会会長・
首里城公園事業に係る住民の会会長
1987年(昭和62)2月 沖縄県文書
[0000114274]

沖縄県の首里城公園計画は、地元住民五十戸余、約八十世帯の立退きを伴っていました。立退き後は観光バスの進入道路や街路の景観整備などが予定されており、住民生活を犠牲にして観光産業の活性化を優先しているとして、地元住民の反発を招きました。

首里城公園 計画予想図



1987年(昭和62)頃 沖縄県文書[0000114274]

一九八六年、沖縄県は、那覇市が広域都市計画公園として予定していた龍潭公園の計画を廃止し、首里城公園計画を追加(実質的に編入)する変更計画を協議しました。那覇市は、住民の立退きを伴う都市計画道路計画の追加も含めて承認しつつ、地域住民の合意形

成を図る必要があると述べています。この計画図はこれら一連の協議文書と共にファイリングされており、作成者が県か那覇市か明らかではありませんが、当初の計画の概要がわかります。



戦前の首里城正殿

沖縄を訪れた社会学者・河村只雄が撮影しました。
1936年(昭和11)10月 河村只雄資料[7-55-21]



瓦礫と化した首里城の城壁

首里城の地下には、日本軍が大本営直轄の沖縄守備隊として創設した第32軍の司令部壕がありました。
1945年(昭和20)5月
米海兵隊写真資料29[87-23-4]



首里城跡に建つ琉球大学

琉球大学は、1950年5月から1984年8月の移転完了まで首里城跡にありました。
1963年(昭和38)6月
琉球政府関係写真資料010[002502]

シマめぐり：沖縄

第12回

大宜味村

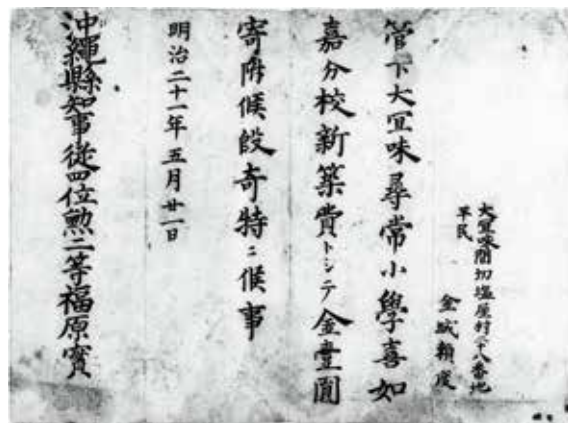


塩屋大橋開通式 爬龍船競漕
1963年6月5日 [002664]

大宜味村は、沖縄島北部の国頭郡に属し、北は国頭村、東は東村、南は名護市に接し、西は東シナ海に面しています。総面積の約 76% が森林に囲まれた、人口 3,048 人（2019 年 8 月末現在）の自然豊かな村です。

写真の塩屋大橋は、老朽化により 1999 年（平成 11）に現在の場所へ架け替えられており、もうこの姿をみることはできません。

大宜味尋常小学校は、生徒数の増加から、一八八八年（明治二十一年）に分校として喜如嘉小学校を創設しました。分校の校舍新築のために大金を寄附した村民の「奇特」な志を沖縄県知事 福原實が讃えています。校舎は、現在の喜如嘉公民館敷地に四十坪で建設されました。戦後は、建て替えられ、二〇一六年（平成二十八）三月に廃校となりました。



寄付金受領証 1888 年 5 月 21 日「金城家文書 大宜味村塩屋」より
[E00003220K]

大宜味村長、村議会議長、婦人会長が沖縄民政府・志喜屋孝信知事に宛てた陳情書です。一九四九年（昭和二十四）六月二十日に上陸したデラ台風による農作物被害について記されています。初夏に植えた甘藷、大豆などの豆類、ゴマは特に被害が大きく、村民はより苦しい生活を余儀なくされている状況を訴えました。また、畑の多くは急傾斜に位置し、耕作するのが難しい土地であるために毎年食糧難に陥る実態も伝え、将来的な食糧増配を視野に入れて被害状況を調査するよう切望しています。



陳情書 1949 年 6 月 29 日「陳情書 2 1949 年 5 月～1949 年 12 月」より [R00000492B]

この資料は、琉球政府経済局農地課職員が一九六四年（昭和三十九）十月二十三日から十一月九日にかけて宮古や八重山、大保開拓移住地へ出張した時の復命書です。大保開拓移住地は、現在の大宜味村江洲にあたります。出張の目的は、開拓者の育成指導と政府所有の水牛の輸送でした。大保開拓団の内訳は、田嘉里や塩屋など大宜味村出身者二十一人、羽地や嘉手納など他町村出身者九人でした。復命書に添付された写真から、整備されたサトウキビ、パイナップル、お茶などの農地や道路、住居や売店、子どもたちの表情など、当時の生活の様子が伝わります。



3. 大宜味大保開拓移住地「復命書 宮古開拓地高野開拓団 八重山石垣各移住地区 大宜味大保開拓団」より [R00058261B]

パスファインダー

資料の森を歩くための道しるべ

Pathfinder



パスファインダーとは

「資料がうまく見つけれない」

「調べているテーマについて、公文書館にどんな資料があるか知りたい」

閲覧室にこのような相談が寄せられると、スタッフはお話を聞き取って、資料の紹介や検索のサポートをしています。こうした資料調査の入り口で、調べものを効率よく進めるのに役立つ心強い味方が、「パスファインダー」です。

パスファインダー(Pathfinder)は、path(小道)とfinder(探求者)を複合した言葉で、「道案内」や「誘導者」を意味します。ある特定のトピック(主題)に関する資料の紹介や、情報を収集する手順をまとめたツールのことで、図書館や資料館等で利用されています。

当館では利用の多い資料や代表的な資料を中心にトピックを選び、紙のリーフレットの形でパスファインダーを作成しています。現在、トピックの数は、「地籍調査」「沖縄戦」「USCAR文書」「軍雇用員カード」など、14種類となっています。

閲覧カウンターでは、スタッフが皆さまの質問に合ったパスファインダーをお渡しして詳しく説明していますが、閲覧室内でも全種類のパスファインダーを自由に手に取ることができます(下記【パスファインダー一覧】参照)。

パスファインダーを使いこなす

スタッフに相談する時間がないときや、ご自身で所蔵資料検索システムを使って資料を探す場合は、事前に関連するパスファインダーに目を通すことをお勧めします。各パスファインダーにはよくある質問に対する答えが用意されています。

また、資料を理解するためのポイントや、ステップを踏んだ調べ方をわかりやすく説明していますので、調査時間を節約し、求める情報に近づくことができます。

下の見本は「立法院会議録」のパスファインダーです。立法院は1952年～72年まで存在した琉球政府の機関で、住民の代表によって法律を制定していました。当館は約1500冊の立法院会議録(速記録)を所蔵し、さまざまな目的で利用されています。主な項目は、①[トピックの基礎知識](立法院とは)②[資料作成の背景](本会議録と委員会議録)③[ステップによる調査手順](検索方法)④[関連資料](その他の参考資料)などで、利用者自身で調査ができるように構成されています。

さらに探索路を広げる

パスファインダーは質問の多いトピックだけでなく、沖縄県公文書館として積極的に紹介したいトピックも扱っています。米国統治下の沖縄と米国側のやり取りを記録した「対米国民政府往復文書」のパスファインダーはその一例です。また「写真資料」や「映像資料」「新聞資料」など媒体別のトピックも取り上げていますので、多様なパスファインダーから関連資料が見つかる可能性があります。さらに、一部のトピックは当館HPの「レファレンスQ&A」に掲載されています。

パスファインダーが良き「道しるべ」となることを目指して、閲覧室では随時、トピックの追加や更新を行っています。

もちろん、何か不明な点があるときは、スタッフが皆さんの資料探索の同伴者になりますので、お気軽にお問い合わせください。

①トピックの基礎知識

②資料作成の背景

③ステップによる調査手順

④関連資料

閲覧室で配布中

【パスファインダー一覧】

- ◆USCAR文書
- ◆軍雇用員カード
- ◆米国民政府往復文書
- ◆立法院会議録
- ◆閲覧室へようこそ
- ◆はじめての公文書館
- ◆小・中学生の皆さまへ
- ◆米国収集資料
- ◆地籍調査関係資料
- ◆沖縄戦関係資料
- ◆家譜
- ◆空中写真
- ◆写真資料
- ◆新聞資料

【レファレンスQ&A】

<https://www.archives.pref.okinawa.jp/qanda>



表面

裏面

パスファインダー「立法院会議録」

公文書管理講座:ベスト・チョイス! 歴史資料としての公文書 公文書館の評価選別・整理の方法

来場者
コメント

9月27日 講師:(公財) 沖縄県文化振興会職員
盛りだくさんの内容で、どれも参考になりました。特に利用制限審査について、
公文書の整理方法について勉強になりました。(宜野湾市・40代)



上映会2: 移民は生きる

来場者
コメント

10月19日 講師:下嶋哲朗(ノンフィクション作家)
終戦直後、軍服の払下げ(HBT)の手作りの服ばかり着ていた頃に、ハワイからラ
ラの贈り物として届けられた、色とりどりの服に感激した覚えがあります。移民さ
れた方々の血のにじむような御苦労をされ祖国沖縄のために尽くしてくださ
った、人間愛に心から感謝します。私達も助けの必要な人々に愛の手をさしのべる
べきだと感じ、少しでも実践できるようにしたいと感じました。
(南風原町・70代以上)



資料保存講習会: 紙を繕う

来場者
コメント

11月29日 講師:(公財) 沖縄県文化振興会職員
今までテープでの補修しかしてこなかったので、和紙での補修を体験してみて、テ
ープよりも資料にやさしくて、良いなと思いました。今日は、体験の機会をくださりあり
がとうございました。大変楽しく感じました。機会があればまた参加したいです。
(南風原町・20代)



はじまりました!

所蔵資料展

「沖縄観光のあゆみ」Tourism in Okinawa—a brief history

期間:2020年1月21日(火)~6月28日(日) 場所:当館展示室 **入場無料**

首里城関連資料も織り交ぜながら、観光地としての沖縄のあゆみを当館所蔵資料でご紹介します。



那覇方面からの駐車場入口にご注意ください。

県道241号の拡張工事により中央分離帯が設置されたため、那覇方面から来館する
場合は従来駐車場入口の正門(赤瓦の門)に右折(侵入)ができません。

那覇方面から車で来館の際は、**当館手前の信号で右折し、新しい入口専用道路から**
お入りください。

※新しい入口は「入口専用」です。お帰りの際は、正門(赤瓦の門)をご利用ください。

※マイクロバスや大型バスで来館の場合は、329号線側から那覇向けに進行して正門
(赤瓦の門)からお入りください。

利用案内

- 開館時間** 午前9時~午後5時(閲覧申請は午後4時30分まで)
- 休館日** 月曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)、6月23日(慰霊の日)
- 利用について** 入館は無料です。書庫内資料の閲覧には「利用証」が必要です。「利用証」発行には、
現住所が確認できる身分証明書をお持ちください。
- 交通案内** 那覇バス 系統番号1,2,3,4,5,14,15「新川営業所」徒歩3分
東陽バス 系統番号191「県立南部医療センター前」徒歩10分
高速バス 系統番号111,117「県立医療センター前」徒歩10分
*駐車スペースが限られていますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

